

ホタテガイ養殖管理情報

水温が中層（10～15m層）で23℃を超えてきたので、稚貝の施設を水温の低い下層へ沈めましょう。
水温が26℃を超える時は、稚貝採取をやめましょう。

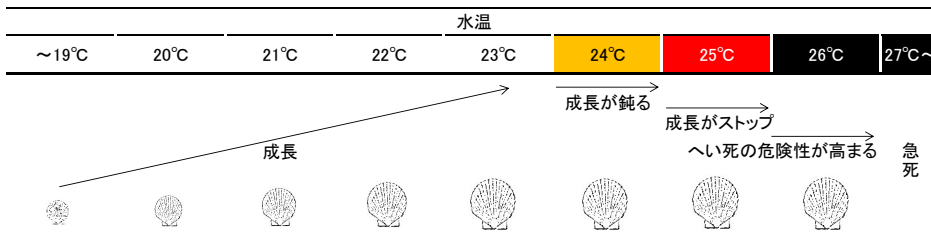
1 海況

8月3日時点の各ブイの水温は、図1、2のとおりで徐々に上昇してきており、中層（10m層～15m層）で23℃を、1m層では26℃を超えるところが見られてきました。

2 稚貝採取時の注意点

水温が23℃を超えると成長は鈍り、25℃で成長がストップし、26℃を超えるとエネルギー不足からへい死の危険性が高まります。また、27℃以上になると、鰓による呼吸ができなくなり、急死します（表1）。

表1 稚貝の成長と生残率に与える水温の影響



このため、稚貝採取を行う際は表層の海水温を直接測るか、海ナビ@あおもりでブイの水温（下記URL、QRコード）を参考にして26℃を超す時は稚貝採取をしないでください。

なお、26℃以下の時に稚貝採取を行う場合には以下の点に気をつけ、採取後は施設を水温の低い下層へ沈めてください。

(1) 稚貝を大切に扱きましょう。

○作業は早朝の涼しい時間帯に行い、タライや水槽の水温が上がらないように、シート等で直射日光を防ぎましょう。

○タライや水槽の水は出来るだけ深い水深帯から汲み上げ、かけ流しにしましょう。かけ流しにできない人は、タライの海水を頻繁に交換してください。かけ流しまたは海水の交換がないと水温上昇および酸欠で稚貝が死んだり、成長不良になることがあります。

○稚貝は乾燥にも弱いので、手早く作業を行いましょう。

(2) 適正保有数、適正収容数を守りましょう。

○稚貝採取では決められた保有数を守りましょう。

○パールネット1段当たりの収容数を適正にしましょう。

●稚貝の大きさが平年よりも小さいため、平年よりも多くパールネットに入れてしまいやすくなるので注意しましょう。

(3) 採取後の管理に気をつけましょう。

○採取後の稚貝が足糸でネットに付着しているかどうか見ながら作業を進めましょう。

○水深が浅いほど水温は高く、潮も速いので、採取後は施設を下層に沈めましょう。また、立ちきり（土俵）やオモリをつけて、施設やネットを安定させましょう。

○採取後も一部の採苗器を残しておきましょう。

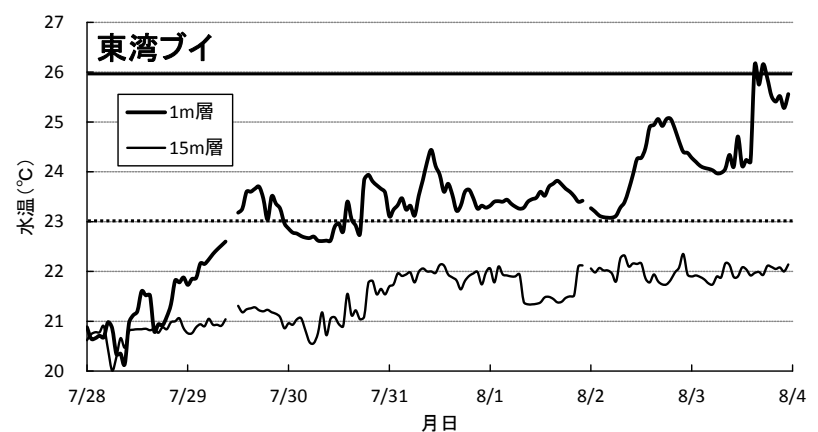
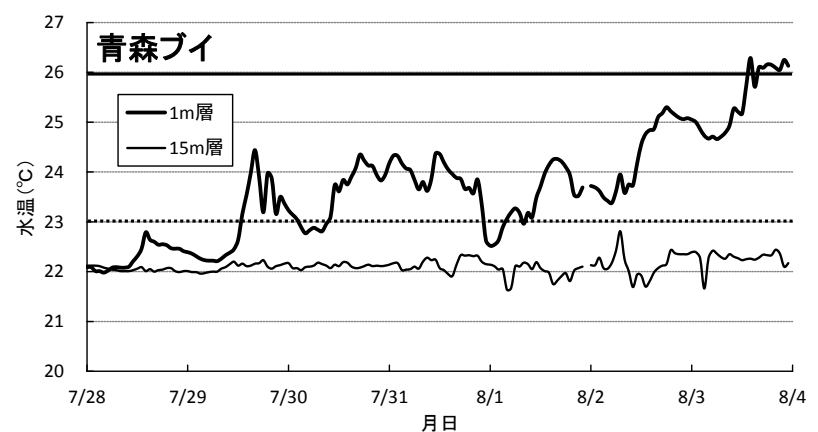
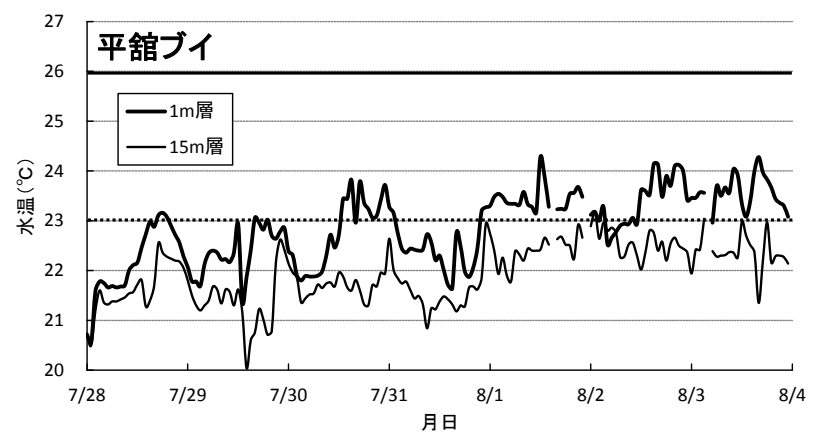


図1 海況自動観測ブイでの1m層と15m層の毎時の水温変化



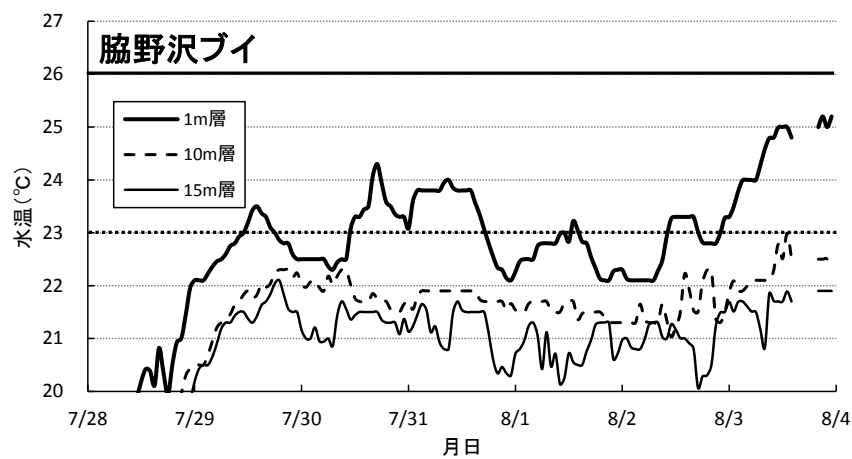
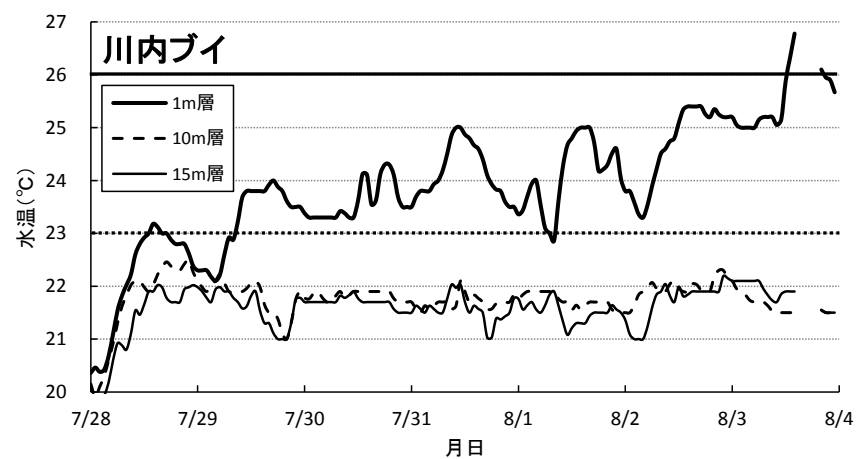
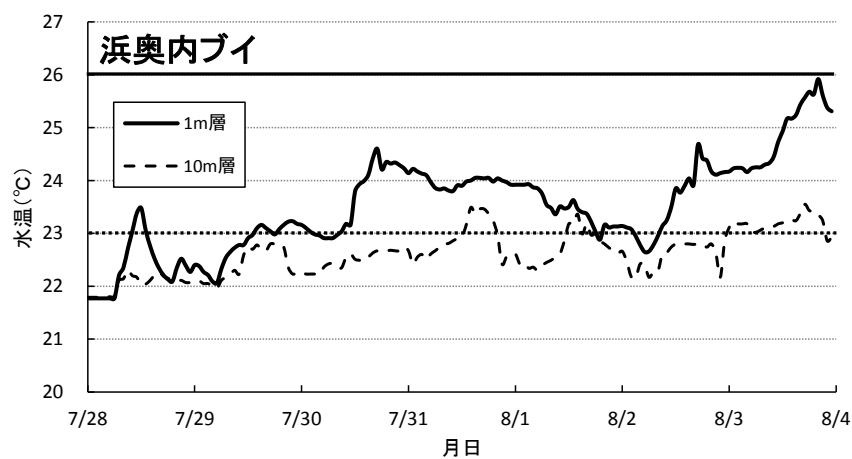
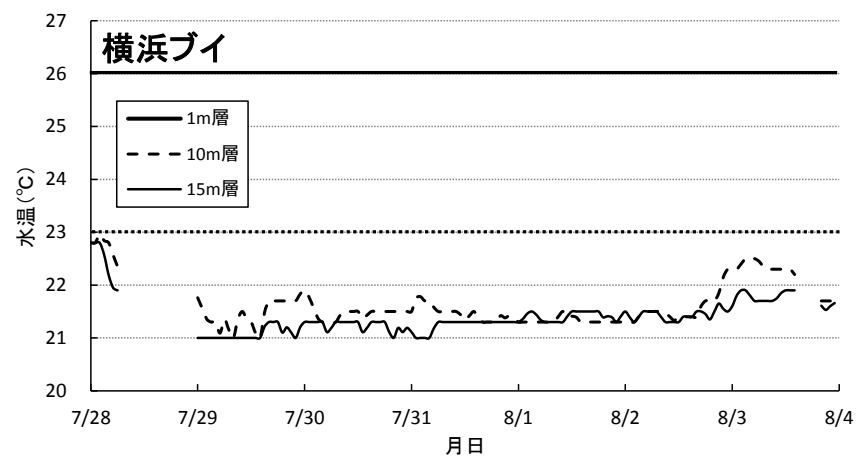
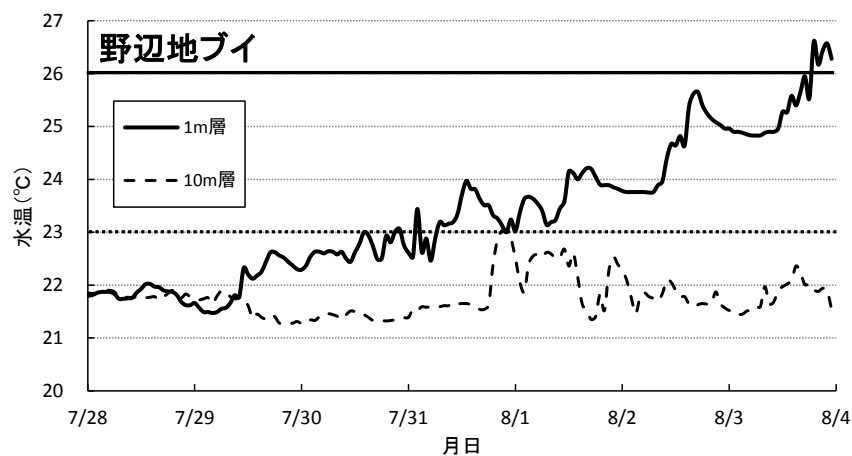
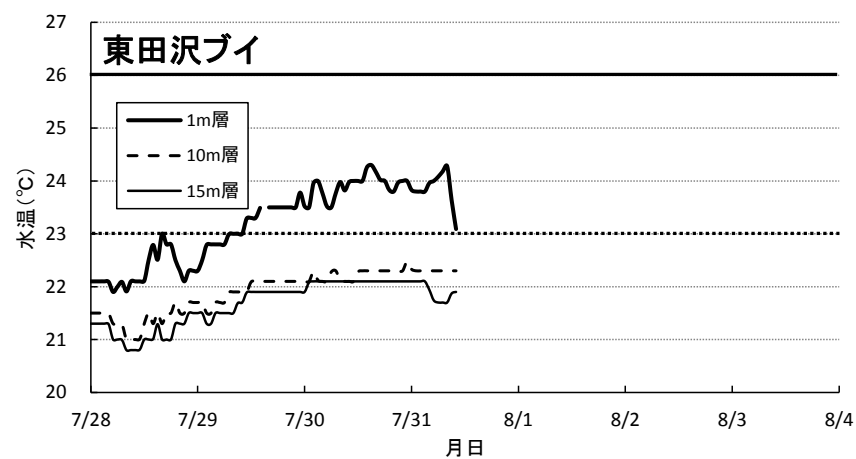
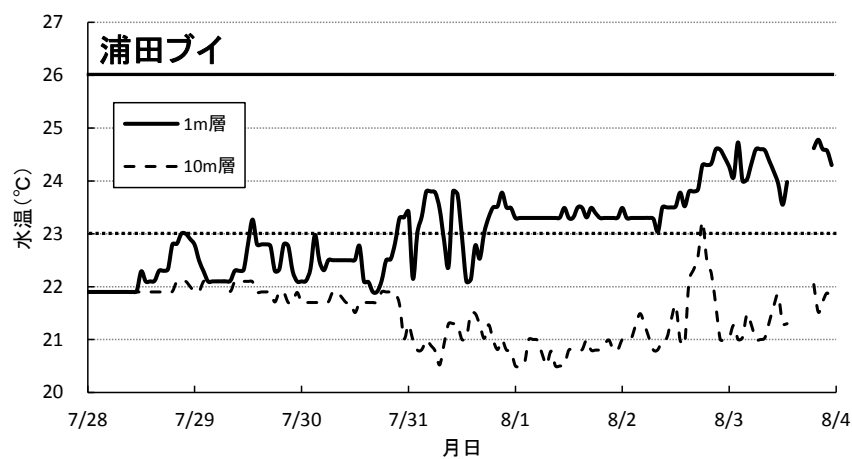
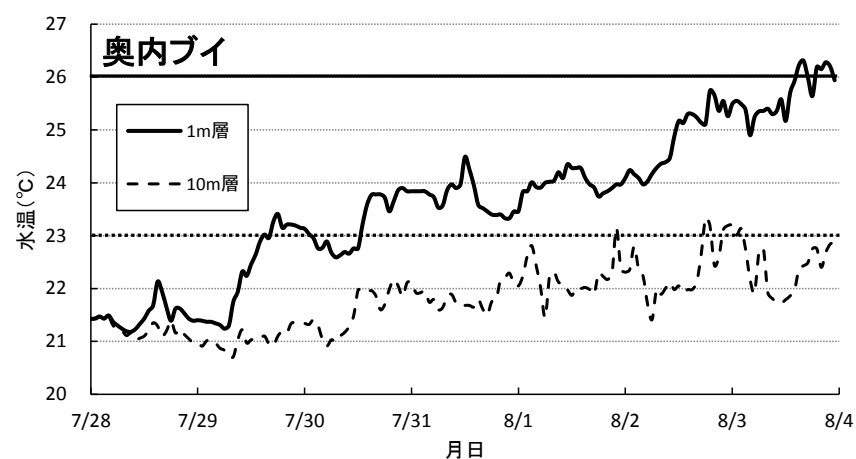
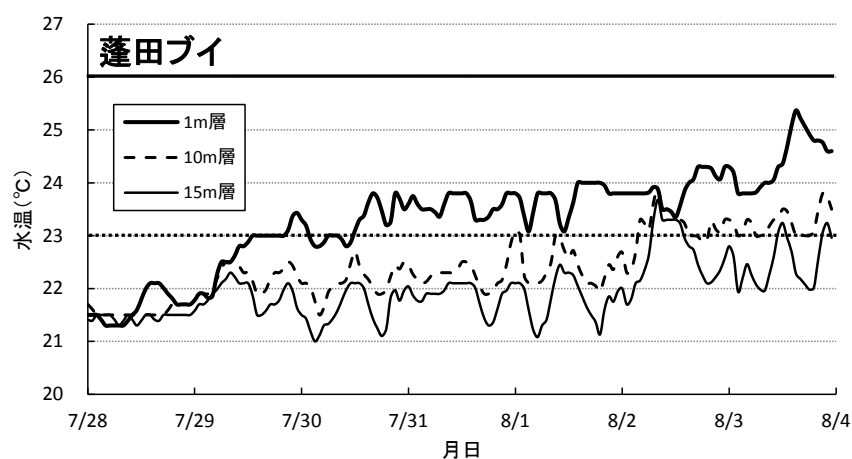


図2 水温観測ブイでの1m層～15m層の毎時の水温変化